

2月の書籍紹介

『『下町ロケット』で学ぶ！12の社会人基礎力』

鹿目葉子、大橋真由美、榎原実香 著

くろしお出版、2023年2月10日出版、

ISBN978-4-87424-926-0-C0081、2200円（税込み）

本書は日本及び海外の大学で日本語教育に携わる研究者3名が、日本語教育と同時にキャリア教育及び新人研修の教科書として開発したユニークな「教科書」である。キャリア教育の一環として、一般に用いられる「日本語の使い方、文法、TP0に合わせた表現方法」だけではなく、人気を博した『下町ロケット』（池井戸潤作、1～4巻）の登場人物を生かして、その場その場にふさわしいコミュニケーションの作り方を学ぶという、面白くてためになる、新しい日本語の斬新な習得法に驚かされる。

テレビドラマにもなった人気小説を日本語教育の教材としたのはこの業界で初めてのことであったようで、著者たちは試行錯誤を重ねて作成に携わったために大変な苦勞の連続であったようだ。

本書は本来、学生が教師の指導の下に学ぶという教科書であるが、単に教師主導で受け身で学ぶというものでもない。教師の指導の下であっても、学生が自分で考え、クラスメートと共にまとめるという作業を重要視している。また学びなおしを期待するベテラン層にとっては、楽しんで独学ができ、新しいアイデアを得ることができるユニークな教科書でもある。

本書のテーマが「社会人基礎力」であるが、基礎力の獲得を目的としたビジネス日本語の教科書はいくつかあるが、短い頁数で社会人基礎力の全能力要素の獲得を目的とした教科書は珍しいように思える。

それは以下の点が分かりやすく上げられていることに見られる。

- ① 社会人基礎力の12能力要素が機能的に学べること
- ② 小説『下町ロケット』のみで作られていること

- ③ 対象が高校生、大学生、企業の新人研修、留学生や研修生など幅広いこと
- ④ 初心者だけでなく、ベテラン層にも、これまでの自分を振り返り、新しい時代に即したプランを考える構成になっていること
- ⑤ 効果的なビジネスメソッドが紹介されていること

これらのうち、特に注目されるのが、『下町ロケット』が全編を通して用いられている点である。物語の展開と日本語の習得とが重なり合って、学ぶ者に様々な現場での解決法が提示される。

著者の一人は、特に苦勞したこととして以下の点を挙げている。

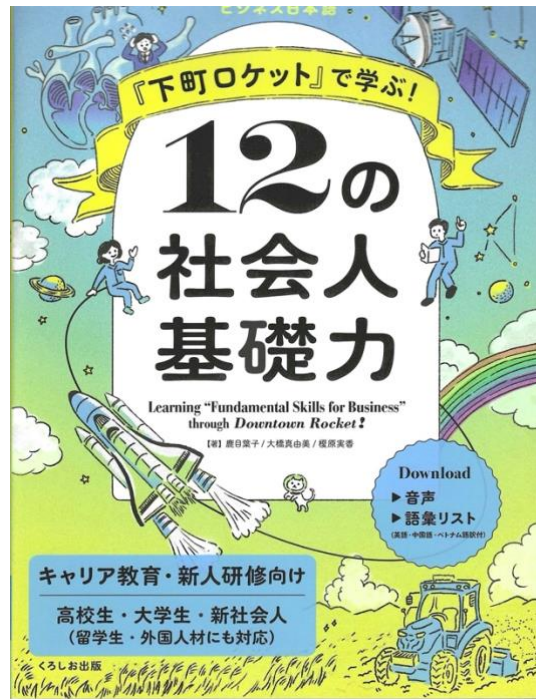
- ① 小説から 12 能力要素が顕著な箇所を探し出すこと
- ② 小説のセリフのつなげかたに苦勞し意味が通るようにすること
- ③ 学習者にとってテーマに掲げた 12 能力要素が学べ、知識として獲得することに結びつく読解問題を作成すること
- ④ 読解文を使ってビジネスメソッドが理解できるようにすること（読解文とビジネスメソッドの連携）。

本書は、池井戸潤氏が小説の使用を快諾しなかったなら、最初から不可能となる企画であった。また著者たちが実際に日本語教育に携わっているタイの大学でこの計画についてテスト授業を行うことができなかったなら、本書の出版は不可能となったかもしれない。

何事もそうであるが、新しいことに挑戦することは、大変にむづかしい。特に出版不況の現代では、まじめな内容であるほど読者層も限られてるために、新しい書籍に挑戦することは、実に難しい。

本書は勇猛果敢にユニークなアイデアを実現させ、日本語という世界でも習得の難しい言語に親近感をもって学ぶことができるように心を込めた「贈り物」かもしれない。

(塩尻和子)



『『下町ロケット』で学ぶ！12の社会人基礎力』